

令和2年度 学校経営方針

北九州市立花尾小学校 校長 麻生 和秀

○ 本年度の学校経営のテーマ



キープ スマイル、ステイ ポジティブ

1. 学校教育目標

「地域の特性を基に、知・徳・体・食の調和のとれた心身ともに健康な児童の育成」
保護者や地域に信頼され、子どもも教職員も誇りのもてる学校づくりの推進

2. めざす学校像

- 1 子どもにとって「わかる授業」と「居場所」があり、気持ちよく挨拶を交わし、安心して力が発揮できる学校
- 2 一人一人の子どもの健やかな育ち（心・学力・体力）のための「花尾小スクールプラン」を軸として、全職員が指導力を磨き、「チーム花尾」として協働する、元気で活力のある学校
- 3 説明責任、結果責任を果たし、家庭・地域との相互理解・協力を図り、家庭・地域の信頼を得ることができる開かれた学校
- 4 安心・安全で、きれいな学校（心もきれい、学校もきれいな「クリーン花尾」）

3. めざす子ども像

<心の育ちの推進> 人や地域を大切にし、文化を受け継ぐ子ども	<確かな学力の向上> 自ら学び考える子ども	<健やかな体の育成> 心身ともに健康な子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命を大切にする子ども ・親切で思いやりのある子ども ・礼儀正しい子ども ・地域の活動に積極的に関わる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをしっかりと伝える子ども ・よく考え正しく判断する子ども ・進んで学び、表現する子ども ・知識を知恵に活かす子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで働く子ども ・進んで体力づくりに取り組む子ども ・健康で安全に生活する子ども ・外で元気に遊ぶ子ども

4. めざす教職員像

- ★子どもをよりよく伸ばすために情熱を注ぐ「プロ教師（教職員）」★
- 児童理解に立ち一人一人に教育的愛情を注ぎ、子どものよさと意欲、力を引き出す教職員
 - 子どもや保護者の「願い・思い」に真摯に応える教職員
 - 1単位時間の学習指導を大切に、「楽しくわかる授業づくり（5つのポイント）」を行う教師
 - 研究研修に意欲的に取り組み、指導力・授業力・企画力・実践力の向上を図る教職員
 - 経営方針や校務分掌に基づき、自覚・責任・意欲をもって業務を遂行する教職員
 - 学校教育への信頼と理解・協力が得られるように、家庭や地域・関係機関と連携を密にする教職員
 - 服務規律を遵守する教職員（体罰、飲酒運転、ハラスメント、個人情報漏洩等々注意を）
 - 時間を守り、計画的に指導、報告・連絡・相談・確認を怠らない教職員
 - ワークライフバランスを保ち、元気で活力のある教職員

5. 本年度の具体的取組

★「信頼される学校」「誇りのもてる学校」のために

(1) 心の育ちの推進

- ① 特別支援教育の充実を図る。特別支援学級（青空学級）特別支援教育に対する正しい理解を広げ、個々の実態を全職員で共通理解しながら組織的な支援体制を充実させる。（校内研修やケース会議を充実し、全校一致の支援体制を目指す・関係機関との連携）
- ② 特別に支援の必要な児童（特別支援・不登校等）への全職員で共通理解しながら組織的な支援を行っていく。
 - ケース会議を充実し、全校一致の支援体制
 - 関係機関との連携
 - 「連絡帳より電話、電話より家庭訪問」積極的に家庭訪問を。
 - 年2回のSUTEKIアンケート及び長期欠席の未然防止と初期対応の活用
 - スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等関係機関との連携
- ③ 3つの名人の意識付け（あいさつ名人・そうじ名人・あったか言葉名人）
 - あいさつ名人（教職員も子どもも）
 - ・あいさつ運動を実施
 - ・学校内だけでなく、地域の方にも
 - そうじ名人
 - ・「クリーン花尾」を意識した行動の推進。（心もきれい・学校もきれい）清掃指導の徹底。子どもに掃除の仕方（共通理解）を徹底しながら、一緒に掃除をしましょう。
 - ・時間いっぱい、黙々と丁寧に、教師も一緒に
 - ・下足箱の靴は、きれいにそろえて置く。「靴を揃えることは、心を揃えること。」
 - ・ごみをポイ捨てしない児童の育成
 - ・環境教育の充実（SDGsの視点）
 - あったか言葉行動名人
 - ・相手を思いやる言葉づかいや行動を認め賞賛していく。
 - ・「よいところみつけ」全校で子ども達の頑張りを認め、声掛けを行う。
- ④ 学級目標を軸とした学級経営。子どもと共に学級目標（1年間のめざすゴール）を作成し、様々な場面に活用し立ち返る。振り返りの場面の位置付け。（早めに学級目標を作成・掲示）
- ⑤ 「特別の教科道徳」の充実。年間指導計画に基づいて、教科書の教材と本市作成教材（新版いのち・北九州道徳郷土資料を必ず位置付ける）等を活用して週一時間（年間35時間1年生34時間）の授業を確実に行う。（考える道徳・議論する道徳の推進）
- ⑥ 確かな人権感覚を育む。子どもの思いや願いを知り、よさや違いを認める中で、子どもの個性や可能性を伸ばし、共に生き、学び合う学級・学年・学校経営に努める。また、公教育の立場を踏まえ、個人情報取り扱いやプライバシーに配慮する。「人権教育ハンドブック」「新版いのち」「かけがえのない命を大切にするために」等を活用する。
- ⑦ いじめは「どの子にも、どの学校にも起こりうるもの」と捉え、「いじめすることは、人間として絶対に許されない」という強い認識に立つ。常にアンテナを高く保ち、子どもの発するサインを見逃すことなく、早期発見・早期対応に努める。
 - ・北九州子どもつながりプログラムの活用
 - ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等関係機関との連携
 - ・学期に1回いじめアンケート、面談の実施
 - ・自殺予防教育の実施
 - ・ネットトラブルの防止教育
- ⑧ 好ましい人間関係を育み、「心の居場所」作りや楽しい学校生活の実現を図る。
- ⑨ カウンセリングマインド生かした教育相談や児童理解に基づいた指導を行うとともに、

「是は是、非は非」とする毅然とした態度で指導にあたる。

- ⑩ キャリアパスポートを活用した達成感・成就感の育成

(2) 確かな学力の育成

①【授業改善】

- 花尾小スクールプランを軸とした教員の指導力向上や業務改善・家庭学習習慣の充実
- 「わかる授業」づくり5つのポイント（「学び合いの基盤（学習規律）」「板書には、必ずめあて、まとめと振り返り」「子どもの思考を深める発問の工夫」「1単位時間の中に話し合う活動と書く活動」「まとめとふりかえり終わり5分の確保」）による授業改善。
- 教職の専門性を高める研修の充実
 - ・教科等チャレンジリーディングスクール事業（体育科） 10月8日（金）
 - ・授業改善へ向けた校内授業研究
 - ・校内人材育成（OJT）先輩の授業に学ぶ
 - ・SDGs の視点を取り入れた教育の推進
- 教科等で培った知識を活かす生活科・総合的な学習の時間の充実（知識を知恵の活かす）
- 外国人ALTと日本人ALTを活用した3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科の実践を深めていく。（専科指導）

②【補充学習】

- 学力定着サポートシステムを活用して子ども一人一人の課題を把握し、基礎学力定着を図る。（繰り返し・下学年の活用）
- 4年～6年は、単元末テストを活用して、思考力・判断力・表現力等を評価するとともに、思考力等を高める学習指導を充実する。
- 子どもひまわり学習塾を実施し、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。

③【家庭学習】

- 家庭学習の充実。「家庭学習チャレンジハンドブック」「自学ノート」の活用。
- 宿題は、質・量を考えて。

④【読書】

- 朝の読書（物語を中心に）・読み聞かせ・図書的时间等読書に親しむ時間を確保する。
- 長文を読む習慣を。

(3) 健やかな体の育ち

- ① 1校1取組を年間を通して推進していく。
- ② 休み時間の外遊びを推奨する。
- ③ はやね・早起き・朝ごはんの推進を図る。
- ④ ミスのないアレルギー対応給食を行う。（確認の徹底） ※エピペン使用児童あり

(4) 「業務改善」と「チーム花尾」

- ① 子どもと向き合うための時間確保のために業務改善のための学校行事・時程等の見直し。
- ② 教職員の在校時間の見直し、毎週金曜日は、定時退校日。残業時間月平均30時間以内を目指す。ワークライフバランスの取れた職場に。学校行事の精選。
時間外・休日勤務の縮減 … 今日は何を、どこまで、何時まで → メリハリを付け、胸を張って早く帰ろう！
- ③ 風通しのよい学年・学校づくりと子どもの育った姿で語り合える教師集団を形成していく。
- ③ 「スピードは誠意である」報告・連絡・相談を確実に。一人でかかえこまない。
「さ」最悪を想定して「し」慎重に「す」すばやく「せ」誠意をもって「そ」組織的に
- ④ 学級通信等を活用して、クラスの様子・子ども頑張り等を発信。（よいことの貯金）
- ⑤ 「危機管理マニュアル」に基づいた避難訓練・交通安全教室等を実施する。

(5) 「信頼される学校」

- ① 体罰・飲酒運転・個人情報漏洩・ハラスメント等綱紀粛正に努める。
- ② 開かれた学校づくりを推進し、学校評価の更なる向上をめざす。
 - ・学校評議員、保護者や地域の方々の意見に耳を傾けたり、学校の取組を説明したり、助言をいただいたりして、学校運営の開放性に努める。
 - ・スクールヘルパー、ブックヘルパー、地域の方々等、学校職員外の力を積極的に活用する。
 - ・保・幼・小・中の連携を密にする。地域施設を有効活用した実践にも取り組む。
 - ・学校通信や学年・学級通信を適宜発行（事前に見せてください）したり、各地域会議の挨拶等で学校の様子を話したりして、情報発信に努める。
- ③ 一人一人が実践的な研修を行い、授業力・教師力の向上に努める。
- ④ 保護者と話すときは、子どもの長所から話す。そのために、日頃から、子どもの情報を集めておくことが大切。
- ⑤ 生徒指導事案は、丁寧な対応を（早期発見・早期対応・早期解決）
 - ※ 子どもの話をしっかりと聞き取る（正しい情報収集）。
 - ※ 悪い情報は、保護者に直接会って伝えること！
 - ※ 怪我や問題行動については、子どもが家に帰る前に連絡を！
 - ※ 電話や連絡帳で伝えるだけでは、翌日に状況が一変することが多々ある。
- ⑥ 礼儀・感謝・笑顔あふれる職場づくり

花尾小の子ども・地域のために、みんな（チーム花尾）でがんばりましょう！